

災害関連死を防ぐ

熊本地震 直接死の4倍 劣悪な環境で被害が増える

2016年熊本地震で発生した災害関連死が221人(うち熊本県218人)にのぼりました。地震による直接的な死者50人の4倍超です。

死因	人数	割合
呼吸器疾患(肺炎、気管支炎など)	63	28.9%
循環器疾患(心不全、くも膜下出血など)	60	27.5%
内因性の急死、突然死など	29	13.3%
自殺	19	8.7%
感染症(敗血症など)	14	6.4%
腎尿路生殖系疾患(腎不全など)	7	3.2%
消化器系疾患(肝不全など)	4	1.8%
その他	22	10.1%

計218人、熊本県の公表をもとに作成

2次避難で健康確保を 公費で旅館等を避難所にできる

健康を守るいちばんの対策は、劣悪な環境での避難所を離れる。2次避難です。ホテルや旅館などを公費で避難所にできます。

被災したら

被災証明をスムーズに 被害実態をまず写真にしておく



被災(りさい) 証明書の申請受付に並ぶ住民。10日、石川県珠洲市

災害にあったら、片付けの前に被害を写真に撮りましょう。被災(りさい) 証明や保険の申請がスムーズになります。ただし、倒壊家屋など危険な場所には立ち入りませぬ。



「被災者支援に関する各種制度の概要」(内閣府)

能登半島地震の被災地では、避難生活の環境を改善する取り組みが求められています。過去の災害では、「災害関連死」が多発したからです。命を守るために何が出来るのか。「避難所・避難生活学会」など専門家の提言や国のガイドライン、過去の教訓をもとに、避難生活に役立つ対策・情報を紹介します。

本由祐典記者 13面にエコマニークラス症候群予防法



石川県豊後町の避難所。15日(撮影・細野昭昭)

きびしい避難生活 命を守るために

避難所は「TKB」が大事

健康悪化を防ぐには「TKB」(トイレ、キッチン、ベッド)が大事です。

「トイレ」が不便だと被災者が水の摂取を控え、エコマニークラス症候群、肺塞栓症や脱水症などを招きます。汚いとフロアウイルスなど感染症がまん延する恐れもあります。

「キッチン」は食事、栄養バランスがよい温かいもの、アレルギーに配慮したものが必要。支援物資だけでは、朝食はパン一ぱいなど問題が生じます。

「ベッド」は、段ボールベッドがエコマニークラス症候群対策に有効です。床に「雑魚寝」では、低体温症、生活不活発病、肺炎などの危険もあります。

布団、枕などの寝具を配布すると不眠や衛生環境が改善します。内閣府は「避難所を設置した場合は、速やかに(中略)避難生活に必要な被服、寝具、日用品等を配布すること」(災害救助事務取扱要領)としています。

「トイレ」が不便だと被災者が水の摂取を控え、エコマニークラス症候群、肺塞栓症や脱水症などを招きます。汚いとフロアウイルスなど感染症がまん延する恐れもあります。女性がトイレを使いにくいことが特に問題です。16年熊本地震では、エコマニークラス症候群で入院が必要と診断された54人のうち42人が女性でした。避難所では、まず力を合わせて土足禁止にしましょう。土足で「雑魚寝」だと、枕元に舞うほこりを吸って肺炎などの呼吸器疾患が多発します。

避難所の国際基準「スプーチン、ベッド」が大いなど問題が生じます。和式トイレの上に洋式便座を設置する改善や、施設内にある洋式トイレの優先利用をすすめます。

国が災害時の利用を推進するマンホールトイレは、石川県内では備えがわずか。トイレの改善には国などの支援が求められます。

授物資のみで十分な食事を長期提供しなさい事例がありました。自治体が炊き出しや仕出し弁当などを提供すること、野菜や肉などを補うことが出来ます。公費も使った栄養管理が必要です。

2018年西日本豪雨の避難所(岡山県倉敷市)に設置された段ボールベッド。エコマニークラス症候群を予防する医療用弾性ストレッチャーも配布されました。

疾患を防ぐ 力をあわせ 土足禁止に

避難所では、まず力を合わせて土足禁止にしましょう。土足で「雑魚寝」だと、枕元に舞うほこりを吸って肺炎などの呼吸器疾患が多発します。

お風呂にしよう 佐賀で注目の 入浴支援バス



長引く避難生活ではお風呂が不足します。過去には自衛隊による仮設風呂や、介護サービスなどで一般的な「移動入浴車」の訪問支援も喜ばれました。入浴施設に被災者を運ぶ「入浴支援バス」(21年8月豪雨で佐賀県大町町)も注目されています。避難所だけでなく被災地域をまわること、在宅避難者も入浴できます。

女性・子どもの安心 更衣・授乳室の 確保や防犯を

着替えや授乳などのプライバシーを確保し、性暴力被害を防ぐ見守りが必要。政府は今回の震災で被災自治体に対して「男女共同参画の観点からの防災・復興ガイドライン」(20年5月)に基づく避難所運営を要請。同ガイドラインの「避難所チェックシート」を活用するよう



「避難所チェックシート」(内閣府男女共同参画局から)

避難者支援、物資の配布

救助の基準額が低い 額にとらわれず 救助の徹底を

国が定める災害救助の基準額が少なく、この範囲では必要な食料や物資をまかなえません。とくに今回の震災は物価高騰のまっただなか。基準額にとらわれず、救助を徹底する

2300円、東日本大震災は、特別基準で同一500円としました。内閣府の担当者は「まず必要な救助を実施していただく。あとから特別基準を協議することも可能」と説明します。こうした情報を国が被災自治体に周知することも必要です。

内閣府も「あとで協議可能」

在宅、車中泊者も 公費救助の対象 生活用品、食事受け取れる

被災家屋などで暮らす在宅避難者や車中泊する人も、生活必需品や食料など公費による救助の対象です。避難所に食事をもらいに行ったら断られたと

やむをえず車中泊する場合は、エコマニークラス症候群や一酸化炭素中毒などを防ぐ注意点をよく確認しましょう。



「やむをえずクルマで避難生活するときのリスクとソナエ」(新潟県)

過去の災害では多様な生活必需品が公費で配られました。低体温症を防ぐ防寒着や寝具のほか、ストーブや燃料も支給できます。

ニーズに合わせた 生活必需品の配布

- 【被服、寝具、身の回り品】 防寒着、作業着、ジャージ、ジーンズ、パジャマ、下着、靴下、布団、毛布、枕、シーツ、靴、サンダル、スリッパ、タオル、ハンカチ、傘など
- 【日用品】 紙おむつ、生理用品、哺乳びん、入れ歯用品、綿棒、せっけん、シャンプー、歯ブラシ、歯みがき粉、洗顔フォーム、洗面器、ティッシュ、トイレトーパー、ウェットティッシュ、ゴミ箱、耳かき、洗濯ばさみ、ハンガー、洗濯用洗剤、ほうき、ちりとり、軍手、バケツ、たわし、ブラシ、体温計、マスク、防じんマスク、文房具、ラジオなど
- 【炊事用具、食器】 炊飯器、鍋、フライパン、包丁、お玉、フライ返し、まな板、ざる、台所洗剤、スポンジ、茶わん、きゅうす、湯のみ、皿、コップ、箸、スプーン、しゃもじ、ラップ、アルミホイル、タッパーなど
- 【光熱材料】 灯油、乾電池、ポリタンク、プロパンガス、湯たんぽ、カイロ、ライター、ろうそくなど